

図書館だより

MAR.2023

No.92

深山書評 2022

2022年度図書貸出ランキング



独立行政法人国立高等専門学校機構

都城工業高等専門学校

National Institute of Technology(KOSEN), Miyakonojo College

目 次

「内部の凍結した海を砕く斧」	図書館長 若生 潤一	1
「本との出会いで振り返る私の半生」	電気情報工学科 御園 勝秀	3
深山書評2022受賞作品発表		6
第1席（深山賞）		
1A 荒場 空 「命と絆を知る旅」		7
第2席（図書館長賞）		
1C 荒川 琴海 「烏という名」		8
第3席（優秀賞）		
2M 木田竜太郎 「『15歳のテロリスト』を読んで」		9
2C 山領 美天 「一九八四年の警鐘」		10
第4席（優良賞）		
1E 上園 優己 「有りの儘」		11
3C 救仁郷明里 「猫が語る人間社会」		12
深山書評2022 取り上げられた作品の紹介		13
2022年度図書貸出ランキング		14
図書館からのお知らせ		16
トピックス・編集後記		17

「内部の凍結した海を砕く斧」

図書館長 若生 潤一

若い頃からよく本屋に行って並んでいる本を眺め、その時の自分の心に何か刺激や癒し、気づきなどを与えてくれそうな本を探すということをしていました。特に自分が苦しい時、悩んでいるときにこのようなことをすることが多かったと思います。本には自分の人生観、世界観について何らかの気づきを与える力があると信じてそのようなことをしてきたのだと思います。



『変身』などの著作で知られる作家フランツ・カフカは友人への手紙の中で、「本は、僕たちの内部の凍結した海を砕く斧でなければならない。そう僕は思う。」と書いています。読書により、それまでの人生の様々な経験に基づいて無意識のうちに構築された自身の物事の見方、考え方を砕かれる、あるいはそこまではいかずとも、それらについて何らかの気づきを与えられる。近年のインターネットやスマートフォンの普及により情報収集や娯楽などの面での本の優位性がある程度損なわれた現在にあっても、読書によるこのような作用は依然読書の効用の重要な一面として残っているのではないかと私は考えています。

10年近く前の話になりますが、ある本を読んだ後に2週間近くすごく憂鬱な気分が続いたことがありました。それまでも本や映画などにより感情が揺れ動くことはもちろんありましたが、それが1週間も続くことはまずありませんでした。その本のストーリーは確かにハッピーエンドではなかったのですが、一過性の共感や感情移入による憂鬱感ではなく、何かが自分の心の深い所に刺さった感覚がありました。「なぜ自分はこの物語を読んでひどく憂鬱な気分になるのだろうか?」「この作者は何を伝えたくてこのような物語を書いたのか?」。国語の授業でこのような問いを考えさせられたことを懐かしく思い出しつつ、しばらくこの問題について真剣に考えました。ある程度自分の考えが固まると、今度は答え合わせがしたくなります。インターネットのおかげで、今は著者のインタビュー記事を簡単に見つけることができます。そのインタビューで著者はその物語の背後にあるテーマについて、私が考えていたものよりもずっと明瞭な

言葉で語っていました。そのテーマこそが、私が無意識のうちに見ない、考えないようにしていた私自身の人生に対する態度をあからさまにし、そのことが私に憂鬱な気分を引き起こしていたことがよく理解できました。

この本のタイトルは『私を離さないで』(Never Let Me Go)、著者カズオ・イシグロは日系イギリス人の作家で、2017年にノーベル文学賞を受賞していますが、私がこの本を読んだ当時すでにイギリスを代表する作家になっていました。前段で本の内容についてほとんど触れていないのは、ネタバレを避けるためというより私が自身の内面について書くことがうまくできなかったことによります。その結果何を言いたいのか良く分からない文章になっているかもしれません。これまでも学級担任あるいは図書館長として学生の皆さんに読書の有用性についての話をする機会が度々ありましたが、今日ここに書いた「自身の人生観、世界観についての気づきを与える」という作用については、一度もうまく伝えられた気がしていませんでした。それでも私はこのことは読書の有用性におけるとても重要な一面であると思っていますので、この機会に拙い文章ではありますが書かせてもらいました。

私はこの本を40歳前後のときに読みましたが、人生の後半に差し掛かるそのタイミングで読んだからこそ、物語のテーマが心に響いたのではないかと考えています。どの本が皆さんの「内部の凍結した海を砕く斧」となるのかは、その人の人生そして本と出合うタイミングによって大きく変わってくるはずです。図書館や本屋に行き、自身の心をセンサーとしてそのような本をぜひ探してみてください。皆さんとよき本との出会いがあることを心より願っております。



←本館所蔵のカフカ作品

ご紹介いただいた『変身』をはじめ、
独特の世界観が魅力のカフカ作品。
短編はすき間読書にいかがでしょうか。

本館所蔵のカズオ・イシグロ作品→

<ノーベル文学賞(2017)受賞理由>

「壮大な感情の力を持った小説を通し、
世界と結びついているという、我々の
幻想的感覚に隠された深淵を暴いた」



本との出会いで振り返る私の半生

電気情報工学科 御園 勝秀

民間企業で30年近く務めた後に高専の教員となり、本校に着任して13年、いよいよ退職する日を迎えました。「図書館だより」への寄稿なので、私が人生の各ステージで出会った本からどのような影響を受けてきたか、思い出深い本を紹介しながら振り返ってみようと思います。なお、*印の本は図書館にあります。



都築卓司：* 『パズル物理入門』
* 『マックスウェルの悪魔』(講談社ブルーバックス)

大学は理系に進もうと決めて高校に入学しましたが、どの学部にしようか迷っていた時に出会った本です。著者は直感に反するような現象をかみ砕いて説明したり、物理法則を拡大解釈して不思議なSFの世界を創ってみせたりしていたので、すっかり物理の魅力にはまってしまい、理学部に進みました。

R. P. Feynman, R. B. Leighton, M. L. Sands：
* “The Feynman Lectures on Physics Vol. I-III” (Addison-Wesley)
※岩波書店から全5巻で日本語訳あり

カリフォルニア工科大学のFeynmanが新入生に行った物理の講義を基にした教科書で、大学の教養部時代に有志によるゼミで読みました。タイトルに“Lectures”とあるように、話しかけるような文体で書かれています。秀逸なのは、数式よりも物理的なイメージが湧くような説明に重点を置いている点です。私の授業で式や言葉の意味するところを図やグラフで直感的に説明するようにしたのも、この本の影響が大きいです。

木下是雄：* 『理科系の作文技術』(中公新書)

企業の技術者になった私が最初につまずいたのは、わかりやすい技術文書を書くことでした。入社2年目くらいまでは、上司から真っ赤に添削されて戻ってきたことを覚えています。企業の技術者には、開発・設計の記録や特許など、実験事実や開発・設計思想を報告書として残しておくことが求められます。そんな時この本に出会い、技術文書の書き方をイロハから勉強し直しました。私が実験レポートの書き方や中身を細かく指導したのは、このような経験が基になっています。

J. Waymouth :

“Electric Discharge Lamps” (MIT Press)

著者のWaymouthは米国のSylvaniaという光源会社の研究者です。私が東芝に入社して配属された照明事業部で、「いまさら蛍光灯で開発することなんてあるの？」と疑問を抱きながらも、学生時代に学んだプラズマ物理の知識が蛍光灯のプラズマを理解するためにあまり役立たず、落ち込んでいた時に、見兼ねた上司がこの本を譲ってくれました。この本で蛍光灯のプラズマの肝を理解でき、仕事がかげん面白くなりました。まさに、私の技術者人生の前に立ち塞がった壁を打開してくれた本です。皆さんにも、仕事を面白くしてくれる本と出会えることを期待します。

C. M. Christensen:

“The Innovator’s Dilemma” (Harvard Business School Press)

※翔泳社から「イノベーションのジレンマ」という表題で日本語訳あり

市場で絶対的な地位を誇っていた優良企業が衰退するのは、その優位な事業に固執するときだと主張しています。確かに、真空管が半導体に、固定電話が携帯電話に、電球や蛍光灯がLEDに代わり、業界の主役が交代したことを考えると納得がいきます。要は、変化に適応したものだけが生き残るという自然淘汰の原理は、科学技術においても然り。時代を読み解くキーワードは政治、経済、社会、技術の4つで、この視点から過去と現在を振り返り、未来を展望することが大切だと思います。学生の皆さんが入社したい会社は、20年後（～不惑）あるいは40年後（～耳順）にはどうなっているのでしょうか？

稲盛和夫：＊『成功への情熱－PASSION－』

＊『心を高める、経営を伸ばす』（PHP文庫）

一代で京セラを世界的な企業に成長させ、さらに通信事業を改革するためにKDDIを創設したり、瀕死のJALを再生したりした稲盛和夫の、人生哲学と経営哲学をまとめた本です。私が企業の研究所から事業部に異動し、技術以外に経営・経理・人財についても考えざるを得なくなった時に多くのことを学んだ本です。情熱は英語でPASSIONですが、それ以外に、次の言葉の頭字語としても使われています。

Profit－利益、Ambition－願望、Sincerity－誠実さ、Strength－真の強さ、Innovation－創意工夫、Optimism－積極思考、Never Give Up－決してあきらめない

詳細は本を読んでいただくとして、松下幸之助に並ぶ名経営者として、今後も語り継がれていく人だと思います。

D.W. ver Planck, B.R. Teare, Jr. :

* “Engineering Analysis” (John Wiley & Sons)

※丸善から「エンジニアリング アナリシス -工学問題の解き方-」という題で日本語訳あり

高校から大学へ、そして大学から大学院へと進むにつれ、問題解決の道具として難しい数学や法則・公式を次から次へと教わりますが、消化不良になっていませんか？この本では、技術者が実際の問題に遭遇した時、少数の基本的な知識をいかに活用して問題を解くか、その方法と手順を、例題をとおして具体的に説明しています。出版されたのは私が生まれるより前の1954年（！）ですが、この本で示されている方法と手順は現在でも十分参考になります。私が授業中に、文字式では次元をチェックすることや、変数やパラメータの値が極端な場合にどうなるか質問していたのは、この本の影響が大きいです。

新井紀子：『AI vs. 教科書が読めない子供たち』（東洋経済新報社）

「東ロボくん」を聞いたことはありますか？「AIは東大に合格できるか？」という問いに答えるために研究を進めた結果、MARCHレベルの大学には合格できるが、東大は無理という結論に達しました。その理由は、AIは読解力が決定的に不足していたからです。そして、現在の子供は読解力が低いことをデータに基づいて示しています。現在はPCやスマートフォンで必要な情報を比較的容易に入手できますが、情報や知識の受け売りではなく、自分なりに咀嚼し、自分の考えを正しく伝え、相手の話していることを正しく理解することが、今後ますます重要になるに違いありません。

他にも思い出深い本はありますが、制限字数に達したのでこの辺で終わります。皆さんも高専時代に、あるいは社会人になった後にも、人生の羅針盤となるような本に出会えることを期待します。最後はロケット工学の父と呼ばれているR. H. Goddardの言葉でしめます。夢を持ち、その実現に向かって生きていきましょう！

“It is difficult to say what is impossible, for the dream of yesterday is the hope of today and the reality of tomorrow.”



← 御園先生 愛読書の数々

こちらの図書は、現在図書館カウンターに置いています。ぜひ手に取ってみてください。

深山書評 2022 受賞作品発表



今年度で 10 回目となる深山書評。今回は 13 作品の応募があり、学生図書委員 4・5 年生と図書館長によって厳正な審査が行われました。結果、以下の皆さんが入賞され、2 月 14 日に表彰式が行われました。

ご応募いただいた学生のみなさん、ありがとうございました。

ご支援くださいました国語科の先生方、副賞（図書カード）をご提供いただきました本校後援会の皆様、心より感謝申し上げます。

【第 1 席】（深山賞）

1 A 荒場 空 「命と絆を知る旅」

【第 2 席】（図書館長賞）

1 C 荒川 琴海 「烏という名」

【第 3 席】（優秀賞）

2 M 久保美沙希 「『15 歳のテロリスト』を読んで」

2 C 山領 美天 「一九八四年の警鐘」

【第 4 席】（優良賞）

1 E 上園 優己 「有りの儘」

3 C 救仁郷明里 「猫が語る人間社会」

深 山 賞

「命と絆を知る旅」

(東野圭吾『流星の絆』)

建築学科1学年 荒場 空

「一人の命」それは世界で見れば79億分の1、日本で見れば1億2000万分の1。数字で見れば、「たったそれくらい」と思える。

でもたった「一人の命」でも世界の誰かにとってはなにものにも代えられない、1分の1の大切な命。

この小説は横浜の洋食店アリアケを舞台に店主一家の子どもたちの身にふりかかった悲劇の一部始終を描いた作品だ。

親と子を引き裂いた流星とその流星によって繋がれた兄妹。

「もう俺たちだけなんだ・・・」

両親を失った悲しみ・頼れる大人のいない恐怖・将来への不安など複雑に絡み合う感情と葛藤する長男のセリフで、その弱々しさは読み手をより一層の怖さの中へと導く。

もし自分の親しい人が、いやもっと具体的に自分の両親がこの世を去ったら、私はどんな行動をとり、どんな人生を歩んでいくのだろうか。例えば、そのまま悲しさと苦しみのどん底で生きる人生かもしれないし、死を受け入れてもう一度立ち上がるドラマみたいな人生かもしれない。でも一番現実的なのは、主人公たちのように相手への復讐を考える人生だろう。

「自分ならどう動くだろうか？」

そんなタラレバを考えながら読み進めていくとまた自分を改めて深く知ることができるチャンスになる。明日、自分の身にふりかかってきたとしてもおかしくない事実だからこそその面白さは大きな興奮を掻き立てる。

これは日本を代表するミステリー小説家の東野圭吾氏が綴る珠玉のミステリー小説。

2008年には宮藤官九郎氏が脚本を担当し、ドラマ化された名作を暑さ残る秋の夜長にあえて文字で楽しむのも良いではないだろうか・・・

図書館長賞

「鳥という名」

(白川紺子『後宮の鳥』)

物質工学科1学年 荒川 琴海

『愛』その一つの言葉は「愛してる」や、「愛しい」などの表現によく用いられる。その意味はとてつもなく深く、広いため、定義することは難しい。しかしあなたはそれを毒であると感じたことがあるだろうか。

小説とは、ないものをあるものとするとは違う。ないものを作り出すことだ。そこに存在する人物もまた各々の人生を歩むはずだ。そんな小説を読んでもみれば、何かと考えることもあるだろう。

『後宮の鳥』にも様々な人物の人生の1欠片が描かれている。1人の鳥妃と呼ばれる妃を中心に。その広い後宮内では今日も鳥妃の噂は絶えない。しかしその容姿や行動については人によって口にすることが一致しない。そんな謎に包まれる彼女が帝と巡り合い、互いに深く関わり合ってしまう。鳥妃という名に隠された彼女の正体が少しずつ明らかに。

鳥妃である彼女の名前は寿雪。鳥妃という名前は代々継がれてきたものであり、寿雪も先代からその名前を引き継いだ。鳥妃や寿雪には多くの秘密がある。寿雪は先代からの言いつけを守れなくなる自分に顔をしかめながらも、その手に触れるぬくもりを振り払えないでいた。ぬくもりを1つ、また1つと感じた寿雪は愛であろうそれを毒だと言った。あたたかなその優しさが苦しいと。

私はこの瞬間まで知らなかった。考えたことも感じたこともなかった。愛が毒になり得るなんて、そんなまさか。信じきれない私は同時に、その苦しきは本当に毒なのか、とも考えた。

この本を最後まで読んで、私はどちらについても考えてみた。なんせ愛は深くて、かつ広いのだ。毒になることもあるかも知れない。または毒かと思いきや、違う名前の全く別のものかも知れない。

あなたはこの問いを前に何をどう考え、どんな答えを出すだろうか。これを読んで、是非とも聞かせてほしい。

優 秀 賞

『15歳のテロリスト』を読んで」

(松村涼哉『15歳のテロリスト』)

機械工学科2学年 木田 竜太郎

この本は十五歳の少年が起こした事件の真相が徐々に明らかになっていき、少年がテロリストになるまでの経緯を知ることで少年法や少年犯罪について考えさせられる一冊でした。

この本は、「新宿駅に爆弾を仕掛けました」と少年が爆破予告をする動画がアップロードされることから始まります。記者であり、少年犯罪によって恋人を奪われた被害者でもある安藤はこの少年が「少年犯罪被害者の会」で何度か会っていた渡辺篤人だと気づき、取材を始めます。その中で、篤人の過去に起きた事件や周りの人々の行動、安藤との意外なつながりなどが分かっていき、十五歳の少年が起こした事件の一部始終が描かれます。

この物語は少年法によって加害者が守られることに納得できない被害者の心情が多く描かれていて、少年犯罪について考えなければいけないと思わせるものでした。篤人の行動には驚いたけど共感できるようなところもあって、篤人と同じような状況になったら同じような行動をする人もいるのではないかと思います。自分は少年犯罪や少年法についてあまり深く考えたことはなかったのですが、人々が少年犯罪に興味をもつのは凶悪犯罪が発生してからで、そこには必ず被害者が存在するという内容にとっても納得できました。だからこそ、この本を読んで少年法について考えるきっかけにしてほしいと思いました。少年法という難しいテーマですが、徐々に事件の真相が分かっていくところが面白くてどんどん読み進められると思います。後半にはこうなるのかと思わされるころもあって衝撃を受けると思います。ぜひ読んでみてください。

優 秀 賞

「一九八四年の警鐘」

(ジョージ・オーウェル『一九八四年 [新訳版]』)

物質工学科2学年 山領 美天

「一九八四年」この年の出来事を皆さんは知っているだろうか。私は知らない。恐らく他の年代を言われても分からないだろう。理由は単純、歴史に興味がないからだ。

では、なぜこの「一九八四年」という年号を挙げたか。これも理由は単純。この年号こそが、私が紹介する本のタイトルだ。

この本の舞台は、一九八四年の超大国オセアニア。その国は「ビック・ブラザー」率いる党により、支配された全体主義的的未来。主人公、ウィンストン・スミスは歴史の改竄。党の都合がいいように、過去の新聞記事を書き換えるのだ。だが彼は以前から、この党に不満を抱いていた。ある時、彼は自身と同じ思想を持つ党员に出会い、党の転覆を目論む同盟に加入する。しかし、最後には彼も「ビック・ブラザー」を心から愛する党员になる、という後味の悪い結末を迎える。

だが、この本は現代社会になっても売れている。理由は既視感を感じるからだろう。この本には、現代社会と重なる部分が多く見受けられる。例えば作中「テレスクリーン」という監視も出来、情報も与えられる送受信機が出てくる。これは現代のスマホと重なる部分があるだろう。SNS は特に、情報を発信すると同時に、無意識に情報を自ら仕入れてもいる。無意識のうちに私たちは、互いを監視し合っているのだ。主人公は情報を改竄していたが、今、我々の目にする情報はどうか。

ある哲学者によれば、人間は歴史から何も学ばないらしい。それほど、歴史は繰り返し、同様に問題も繰り返されている。この本の問題も形を変え、新しい問題として現代に存在している。本質的には同じことが繰り返されているのだ。

この本は、スリル満点の楽しい小説であると同時に、現代に通じる多くの警鐘を含んでいる。ぜひ一度読み、過去を振り返って見てはいかがだろうか。

優良賞

「有りの儘」

(島本理生『よだかの片思い』)

電気情報工学科1学年 上園 優己

この本は、生まれつき顔にあるアザに劣等感を持つ前田アイコが、あることをきっかけに映画監督である飛坂に出会う。彼はアイコの顔を肯定的に受け入れ、アイコはそんな彼に惹かれていく。この本はそんな恋愛小説になっている。

ぼくがこの本で印象に残ったのは、アイコが大人になってもずっと気にかけていた顔のアザの治療を思いとどまる場面だ。それまでアイコはずっとアザに劣等感を抱いていたのだが「私にアザがあったから、飛坂さんの素敵なところをたくさん知ることができて、好きになった。」とアイコは考えたのだ。アイコがそれまで「無くなった方がいいに決まっている。」と思い続けていたコンプレックスを無くそうとした時。その時に初めて、自分がありのままにいることの良さとか、自分がこの姿だったから他の人よりも飛坂さんのことを知れたという優越感に気付いたところにとっても感動した。

この本で僕が学んだことはありのままにいることの大切さである。前述のとおり、アイコの顔にアザがあったから。つまり、ありのままの姿でいたから飛坂という、一緒にいて居心地の良い人に出会えたのだ。だから、ありのままの姿でいれば本当の自分を愛してくれる人に出会えるし、その人もきっと自分のありのままの姿を愛してほしいと思っ接してくれる。つまり、「ありのままの姿」が「ありのままの姿」を呼ぶのだ。これは恋愛に限らず、いろいろな人間関係において重要だと思った。

だから僕は、これから大切な関係になりたい人には素直に接したいと思う。自分の本当の姿を知ってほしいから。そして、相手の本当の姿を知りたいから。この本を読んで少しでもありのままの姿でいたいと思う人が増えてほしいと思う。

自分の本当の姿に自信を持ってない、そんな人は是非読んでみてほしい。

優良賞

「猫が語る人間社会」

(夏目漱石『吾輩は猫である』)

物質工学科3学年 救仁郷 明里

「吾輩は猫である。名前はまだ無い。」

この文句を知らない日本人はいるのだろうか。いや、いるはずがないと思うほどに名高い。この二文から始まる夏目漱石の『吾輩は猫である』は、長編で難解な部分も多い作品だが、読破したからこそ得るものがある。

当書の最大の魅力は、主人公が「猫」であることだ。「猫」と言っても普通の猫ではない。この「猫」はとても賢い。人の言葉を理解し、人並みに考えを持ち、更には、普通の猫を装って偵察までする。だが、近所の猫と会話したり、メス猫に恋をしたり、猫らしいところもある。こんな「猫」が、人間社会を面白おかしく語り、同時に人間の無力さと傲慢さ、不憫さを表現する。人間社会を少し遠目から見ることで、こんな視点もあったのかと考えさせられるのだ。まさか、「猫」から学ぶなんてことが……。

また、「猫」とその主人である中学教師の苦沙弥先生の関係も面白い。大概、猫はペットとして可愛がられるだろうが、ここでは、家においてもらっているだけで、実は、物語の最後まで名前がつけられることはない。主人が「猫」の頭を撫でながら、この猫の皮を剥いで羽織にしたらあたたかいだろうと考えていたほどだ。思わず笑ってしまった。このような「猫」と苦沙弥先生を中心とし、それらを取り巻く先生の元教え子や個性あふれる友人らと共に、色んな人物を巻き込みながら話は進行する。読むと誰もが気付くと思うが、滑稽な雑談や小事件が圧倒的に多く、常に脇道だらけである。これもまた、苦沙弥先生の間人間関係がよく表れていて面白いのだ。

皆さんも『吾輩は猫である』を読んで、「猫」の視点から私たちの社会を覗いてみてはいかがだろうか。

深山書評2022

取り上げられた作品の紹介

夏目漱石	『吾輩は猫である』*
森見登美彦	『四畳半神話大系』*
R. P. ファインマン	『ご冗談でしょう、ファインマンさん』*
E. シュミット	『一兆ドルコーチ』
松村涼哉	『15歳のテロリスト』*
東野圭吾	『流星の絆』
H. Y. ノア	『ホモ・デウス ～テクノロジーとサピエンスの未来』
G. オーウェル	『一九八四年』*
新海誠	『小説 言の葉の庭』
白川紺子	『後宮の鳥』*
三浦しをん	『愛なき世界』*
王城夕紀	『青の数学』*
島本理生	『よだかの片思い』

※順不同にて掲載しています。

*：本校図書館に蔵書があります。

2022年度 図書貸出ランキング

2022年度。あっという間だった、という方々も多いのではないのでしょうか。コロナ禍からの出口の兆しを感じ始め、学生の皆さんの図書館利用も少しずつ回復しているように思われた1年でした。

活動制限が緩和されるのに伴って、さらに多くの皆さんが図書館を訪れ、本に親しんでくださることを期待しております。

専門科目の図書

全体の 順位	貸出 回数	タイトル	著 者
1	103	分析化学 改訂増補版	阿藤質
2	26	三省堂新化学小事典	三省堂編修所[編]
4	17	電気回路論問題演習詳解	平山博, 大附辰夫
6	13	電気機器	野中作太郎
7	12	理論切削工学	小野浩二ほか[共著]
7	12	無機定性分析実験	京都大学総合人間学部 自然環境学科物質環境講座[編]
7	12	定性分析化学 上巻:原理編	高木誠司
7	12	定性分析:常量法	鈴木進, 浅原弘昌, 青柳忠克
13	10	分析化学実験	阿部光雄[編著]
16	9	切削工学	稲田重男, 寺田利邦, 中沢弘
16	9	基礎実験	化学実験テキスト研究会[編]
16	9	Python で学ぶアルゴリズム入門: スマートな良いコードのために	松浦健一郎, 司ゆき[共著]
23	8	基本定性分析	阿藤質
23	8	分析化学 改訂版	阿藤質
23	8	実験レポート作成法	Christopher S. Lobban, Maria Schefter
27	7	切削加工論	中山一雄
27	7	材料試験	川田雄一ほか[共編]
27	7	仏堂 4	中央公論美術出版
27	7	図解とフローチャートによる定性分析	浅田誠一, 内出茂, 小林基宏[共著]
27	7	三省堂新生物小事典	三省堂編修所[編]

資格・進学・就職の図書

全体の 順位	貸出 回数	タイトル	著 者
3	22	新 TOEIC TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX 加藤
11	11	編入数学入門:講義と演習	桜井基晴
13	10	大学編入のための数学問題集	碓氷久ほか[共著]
13	10	線形代数の基礎:大学教養	市原一裕
16	9	TOEIC テスト公式問題集:新形式問題対応編	Educational Testing Service
16	9	TOEIC L&R テスト文法問題でる 1000 問	TEX 加藤
23	8	編入数学過去問特訓:入試問題による徹底演習	桜井基晴
27	7	1 駅 1 題新 TOEIC TEST 文法特急	花田徹也
27	7	大学編入試験問題数学/徹底演習	林義実, 小谷泰介[共著]
27	7	これが本当の SPI3 だ! 2021 年度版	SPI ノートの会[編著]
27	7	編入数学徹底研究:頻出問題と過去問題の演習	桜井基晴

文芸書などの教養図書

全体の 順位	貸出 回数	タイトル	著 者
5	15	銀河英雄伝説 3:雌伏篇	田中芳樹
11	11	ハサミ男	殊能将之
16	9	図解大学 4 年間の統計学が 10 時間でざっと学べる	倉田博史
16	9	世界「失敗」製品図鑑: 「攻めた失敗」20 例でわかる成功への近道	荒木博行
27	7	銀河英雄伝説 2:野望篇	田中芳樹
27	7	同志少女よ、敵を撃て	逢坂冬馬

開館時間の変更になります

2023年4月1日より、図書館の開館時間を変更することになりました。

平日は閉館時刻が1時間早くなり、休日は開館時刻が1時間遅く、閉館時刻が1時間早くなります。詳しくは、以下のとおりです。

これまで、平日の遅い時間や休日の早い時間ご利用いただいていた皆様には、ご不便をおかけすることになり大変申し訳ございません。何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

学校があるとき

平日 9:00～19:00

休日（土曜日・定期テスト1週間前からテスト期間中の日曜日・祝日）
10:00～16:00

学校がないとき（春季・夏季・冬季休業期間中）

平日 9:00～17:00

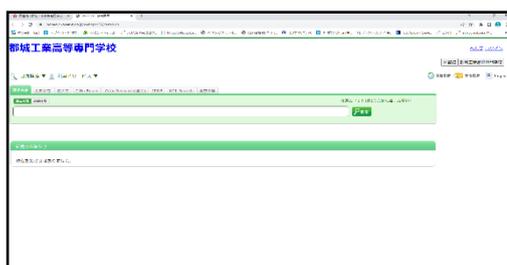
※土日・祝日は休館いたします

蔵書検索はお手持ちのスマホでもできます

2023年3月より図書館システムが新しくなり、それに伴い蔵書検索（OPAC）画面も新しくなりました。

蔵書検索はお手持ちのスマートフォンからでもご利用いただけるようになりましたので、館内の蔵書検索用パソコンは2台から1台になりました。

現在、新しいシステムで検索していただくことは可能です。新しい蔵書検索画面用のマニュアルを、ただ今作成中ですので、マニュアルに沿って利用されたい方は、恐れ入りますが、もうしばらくお待ちください。



新しい蔵書検索画面はこちら



【トピックス】

「国語科との連携」コーナー

開架書庫カウンター後方にある「国語科との連携」コーナー。皆さんはご覧になったことがありますか。国語科の授業で取り上げられる作品や、関先生セレクトによる本が配架されています。作品紹介のポップは関先生の手書きで、そのコメントを読むだけで楽しくなりますよ。ご紹介いただく本は定期的に更新されております。時々のでいてみてくださいね。



デスクライトを設置しました



開架書庫・閲覧室・第2閲覧室の座席に、デスクライトを設置しました。利用者の皆さんが使っているのを目にする度に、設置してよかった、とこっそり喜んでおります。何となく利用者の皆さんの集中度も上がっているような気がします。これからの季節は日照時間が長いですが、秋・冬の日暮れの早い時期になりましたら、デスクライトが活躍するのでは、と思っております。どうぞご利用ください。

編集後記

○少しずつ感染症対策が緩和され、日常生活の制約が少なくなってきました。この3年ほどの間に、ぐるっと様々なことが変わりました。○本校図書館がリニューアルオープンしたのも3年前で、新型コロナウイルスが猛威を振るい始めた時期とちょうど重なります。○せっかくりニューアルしたにもかかわらず、本校学生・教職員さえも利用のままならない時期が続きました。○そのような状況にあっても、宅配による貸出サービスで図書を貸出して研究を続ける学生、休館の合間を縫って文芸書を借りに来館する学生がいてくださったことは、図書館として大きな励みとなりました。○きっとこれからまた、新しい日常生活が形作られていくでしょう。その新しい生活の中にも、本があり続けることを願っております。

